

第2章 現代の経済

1 現代の資本主義経済

2 資本主義経済の発展と変容 (教科書 P.115~119)

▶1. 資本主義経済の変容 [p.115]

(1) 資本主義経済の拡大

: イギリス (18世紀後半), フランス (19世紀半ば), ドイツ・アメリカ (19世紀後半),
日本 (19世紀末)

(2) 諸問題の発生

- ・ 過酷な労働条件 → [] の激化 → 政府も工場法など労働条件改善の動き
- ・ 企業間競争の激化と過剰生産
→ 帝国主義の展開: 19世紀後半~20世紀前半, 帝国主義戦争が頻発

(3) 技術革新による経済発展

企業間競争 → [] (イノベーション) による経済発展
→ 企業は規模拡大に腐心 (規模の利益を追求) → [] 発展
ヴェブレン (米) … 資本・資源の浪費として批判

▶2. 資本主義経済の修正 [p.116]

(1) 大恐慌とニューディール政策

- ・ 世界恐慌 (1929年) → [] 大統領のニューディール政策
- ・ ケインズ理論の影響 (ケインズ革命)
: [] の創出による完全雇用の実現を説く

(2) 第二次世界大戦後の資本主義

- ・ 多くの国々でケインズ理論採用 → 政府の市場介入進む → 修正資本主義 ([] 経済)

▶3. 社会主義経済 [p.117]

(1) 社会主義とは: 生産手段の共同所有と生産活動を社会化する思想・運動

(2) [] の社会主義

- ・ 価値の源泉は投下された労働 (労働価値説)
- ・ 利潤の源泉は不払い労働による剰余価値 (資本家による搾取)

→レーニンによる〔 〕革命の成功（1917年）→ソビエト連邦成立

・第二次世界大戦後：東欧・中国でも社会主義国家成立

(3) 社会主義国家の変容と現状

・計画経済の問題点→生産意欲・生産性の低下←ソ連・中国で利潤原理を一部導入

・1980年代：ソ連のゴルバチョフによる〔 〕（立て直し）の実施

→東欧革命，ソ連崩壊（「〔 〕（CIS）」成立）

・中国の変革：〔 〕の試み（1993年憲法に明記），

改革開放政策実施（1978年～）

→市場経済化の進展，〔 〕の成立（1997・99年の香港・マカオ返還による）

▶4. 新自由主義の台頭とその帰結 [p. 118]

(1) 新自由主義

・1970年代：「大きな政府」の行き詰まり・「小さな政府」志向

→〔 〕台頭

(2) フリードマンによる〔 〕の主張

・ケインズ主義は無効

・規制緩和，民営化による市場機能回復が重要

(3) 新自由主義の負の遺産

・金融自由化・労働自由化→〔 〕拡大

・農業・医療分野へも市場原理浸透→制度の根幹に影響